

## 盗聴発見業者の選び方マニュアル ver1.07

発行者/著作権者 : (株)Akai 探偵事務所

URL : <http://www.akai-web.com/>

e-mail : info@akai-web.com

TEL : 072-873-1995(大阪)

042-382-0575(東京)

盗聴盗撮調査 専用ホームページ

<http://www.akai-tap.com/>

この文書に掲載されたすべての内容について、無断転載、複製、  
複写、盗用を禁じます。

この文書は 一般的なパソコンの解像度(1024×768)に  
最適化された表示サイズとなっています。

お使いの環境に応じて Adobe Reader の表示倍率設定を  
調整していただければ さらに読みやすくなります。

## 盗聴発見業者選びのコツ

盗聴発見業者が、2社ありました。A社とB社、どちらの調査力が高いか、その調査状況から判断してみてください。

### A社の調査

調査開始時からずっと、市販のハンディ受信機に、たくさん枝分かれした指向性の大型アンテナを装備。さらにノートパソコンを片手に持ちながら、調査場所(マンションの一室)をあちこち歩き回っていた。

### B社の調査

手に持った受信機で簡単にスキャンを済ませた後は、調査場所(マンションの一室)の中心付近から移動しない。大きめな箱型機材のダイヤルを操作しながら、ディスプレイ部分を見続けていた。

さて、いかがでしょう？ 普段からテレビなどで盗聴発見の様子を見慣れている人は、「A社が正しい調査をしているはずだ！」と思われたのではないのでしょうか？ しかし実際は、その逆かもしれません。

A社の調査は、単なるパフォーマンスと考えられます。調査できる周波数帯が狭いハンディ受信機に大げさなアンテナを付けても、それで何かが良くなる訳ではありません。基本的に、たくさん枝分かれした「指向性アンテナ」を使うのは、盗聴電波が見付かった後ですから、調査開始時から付けても邪魔になるだけです。確かにアンテナ状になった高機能盗聴検知装置(海外製)も存在はしていますが、ただハンディ受信機にアンテナを付けて外見だけを似せても、調査効率は上がりません。

ノートパソコンを使うのも同様にパフォーマンスという目的が強く、リアルタイムスキャンができる専用機材を使う方が理にかなっています。つまり、とても合理的で綿密な調査をしているように「見える」A社は、実際には2万円程度で購入できるハンディ受信機ひとつを使って調査しているのと同じくらいの調査効率しかないと判断されます。

その逆に、地味な方法に見えたB社が、実は調査漏れが極めて少ない効率的な調査をしていたかもしれません。

盗聴盗撮の発見業といえば、プロの仕事というイメージがありますが

- ・資格や届出がなくても簡単に営業できてしまう
- ・調査技術が低くても「盗聴器なし」と言えば依頼者は安心する

- ・「盗聴」「盗撮」という言葉が独り歩きして、正しい知識が普及していない

という現状があり、どうしても実力不足の業者や、「嘘をついてでも依頼だけ獲得すれば良い」と思っている不誠実な業者が現れてしまいます。

さらに大きな問題なのは、誠実に営業していて実力もある「優良業者」と、そうでない安易な考えの業者との違いを、お客様が外から区別しにくいという点です。

しかし探偵社選びと同じく、信用できる業者を簡単に見分ける方法は、ちゃんとあります。

業者を選ぶときに最大のポイントは

- ・調査や料金について説明してくれるか？(説明責任)
- ・調査機材と知識をしっかり持っているか？(調査能力)

という、2点を押さえておくことです。

この文書は、そういった業者選びのポイントについて、具体的なケースを挙げながら説明しています。

誠実で実力もある優良業者を見付ける方法については、『[優良な業者とは？\(契約編\)](#)』『[優良な業者とは？\(実力編\)](#)』をご覧ください。また、悪徳業者の詳しい手口を知りたい人は、『[こんな業者には注意!](#)』をご覧ください。

## 優良な業者とは？（契約編）

### 住所や連絡先を公開している

（ここがポイント！）

- ・所在地や責任者氏名がはっきり公開されている
- ・メールや電話など、複数の連絡方法が明らかになっている
- ・非通知からの電話でも出してくれる
- ・営業時間内であれば、きちんと電話が繋がる

（その理由は？）

商売の世界では当たり前のことですが、住所や電話番号、責任者氏名といった「責任の所在」を明確にしているところが業者としての最低条件です。

これは逆にいえば、責任の所在をお客様に知らせていない業者がそれだけ多いということで、特に探偵社が盗聴発見もやっている場合によく見られるケースです。

もちろん所在地をどこにも書いていない、またはメールアドレスだけで営業している中でも、調査力が高く親切な業者さんがいることは確かです。しかし、どんなビジネスであれ、特に探偵業や盗聴発見業のようなプライバシーに関わる仕事をするのであればこそ、自社についての「責任の所在」は明らかにしておかなければなりません。

こういった基本情報は公開してこそ、お客様からの信頼を得られるものですから、それを知っていてやらないということは「何かを隠している？」「トラブルが起きたら逃げられるのではないか？」と疑われても仕方ないと言えます。

普通の業者であれば、この点に関して嘘や誇張はありません。住所や責任者氏名はもちろん、資本金にいたるまで正確に書いてあるはずで

もちろん、こういった条件を満たすような業者であれば、少なくとも契約面で失敗する可能性は低いでしょう。（調査技術は別の問題ですが）

また、業者が登記されている法人組織である場合は、インターネットを使えば社名だけから信用情報を取得することができます（大手信用調査会社の有料データベースなど）。検索料金は1社あたり1000円～2000円程度で、個人でも登録さえすれば手軽に利用できます。

少しばかり情報検索料金はかかりますが、これもトラブルを未然に防ぐ有効な手段といえるのではないのでしょうか。

- ・個人営業でも責任の所在が明らか

・有名企業でも責任の所在が不明で、自称する会社規模や実績に不審な点も多い

この両者を比べれば、前者(個人営業)を選んだ方が、満足できる調査をしてくれる可能性は高いと思われます。

## 分かりやすい料金体系

(ここがポイント！)

- ・料金体系が明らかになっている
- ・最終的な支払い総額を見積りしてくれる

(その理由は？)

盗聴発見業者には、いくつかの料金体系、課金方式があります。代表的なものだけ挙げると、以下のようになります。

- ・調査面積や間取り等に合わせて料金が決まる
- ・一戸建てやマンション、会社などの分類で料金が決まる
- ・盗聴器を1つ撤去するごとに追加費用が発生する
- ・盗撮カメラの調査は別途料金
- ・調査時間に応じて追加料金が発生する

このあたりは方針の違いということもあり、どれが優れているとか劣っているという区別はありません。

むしろ料金体系そのものよりも、優良な業者を判断するポイントは、見積り段階で「どれくらいの総額になるか」をはっきり出してくれるかどうかという点です。

もし悪徳業者であれば、契約後になって色々な名目で追加請求してきますが、優良な業者は、依頼契約をする前に料金説明をしっかり教えてくれます。なぜ今回の見積り額になったのか、追加料金が発生するかどうか、追加料金があるとすればどんな場合か、といった点を分かりやすく説明してくれるかどうか大きな判断ポイントです。

決して、見せかけだけの「盗聴調査1000円！」というような宣伝文句に引っかからず、あくまで「最終的な総額がいくらになるか」で盗聴発見業者を判断するようにしましょう。これは探偵業など、あらゆる調査会社を選ぶときの必須ポイントです。

## アフターサービスも親切

### (ここがポイント！)

- ・依頼者からの質問には詳しく答えてくれる
- ・今後の防犯体制についての的確なアドバイスをしてくれる

### (その理由は？)

盗聴発見業者の仕事は、基本的に「盗聴器や盗撮カメラがあるかどうか調べる」ことです。しかし同時に、「お客様に納得・安心していただくこと」も仕事のひとつだと思います。

あまり調査後のサービスに力を入れていない業者では、実際の調査に30分～1時間をかけて、何もなければそのまま料金を受け取って帰ります(それ自体は悪いことではありません)。

その一方、説明責任をしっかりと果たすような優良業者であれば、盗聴器がなかったとしても十分な説明をして、依頼するに至った経緯まで依頼者から聞き、今後の防犯アドバイスなどもおこないます。

- ・どんな方法でどの範囲を調査したか
- ・今回の調査でカバーしきれていない範囲はないか
- ・あまり知られていない、最新の盗聴事情はどうなっているか
- ・コードレス電話を傍受されない為にどうすればよいか
- ・今後の防犯体制はどうすべきか
- ・依頼者が自分で定期的なチェックをするには、どうするか

調査後にも、上記のような点について親切に説明・アドバイスしてくれる業者を選ぶことができれば、その選択は間違っていなかったことになると思います。

アフターサービスがしっかりしているかどうかを事前に知るには、依頼前に問い合わせた電話やメールなどの対応が参考になります。きちんと料金や調査方法について詳しく説明してくれるような業者であれば、アフターサービスもしっかりしていると判断することができます。

## 優良な業者とは？（実力編）

### 知識が多く、調査範囲が広い

（ここがポイント！）

- ・盗聴盗撮発見についての知識が豊富
- ・それを依頼者に分かりやすく説明できる
- ・アナログ盗聴器だけでなく、デジタルや盗撮カメラにも対応できる

（その理由は？）

ある程度の安心感は営業トークで「演出」できても、知識不足だけは隠しようがありません。この点は、優良業者かどうかを判断するのに重要なポイントとなります。

盗聴発見業には免許も届出も必要ありませんから、仕事の少ない探偵や、サラリーマンついでに副業としているような個人業者も、簡単に「営業だけなら」できてしまいます。

業者の実力（知識）を依頼前に判断するため、最初の見積り段階でいくつかの質問を試みるのが有効です。

- ・デジタル盗聴って何ですか？
- ・電波を飛ばさない盗聴器ってありますか？
- ・盗聴って違法ですか？
- ・コンクリートマイクって何ですか？
- ・FAXや無線LANは盗聴できますか？
- ・発見が難しいタイプの盗聴器って何ですか？
- ・デジタル盗聴器の調査はできますか？
- ・盗撮カメラの調査はできますか？
- ・もし盗聴器が見付かった時はどうすれば良いですか？

少なくとも、上記のような質問に答えられない業者は、残念ですが知識があるとは判断できません。

実力のある業者であれば、お客様からの質問に答えてくれます。色々な事例や最新情報を挙げながら分かりやすく説明してくれる調査業者を選びましょう。



## 調査手順や内容を隠さない

### (ここがポイント！)

- ・どんな種類の機材で調査するのか事前に教えてくれる
- ・調査の大まかな流れを事前に教えてくれる

### (その理由は？)

見積りや相談で「どんな内容の調査をしてくれますか？」と聞かれて、「それは企業秘密ですから答えられません」と何も教えてくれない業者では、あまり信用する気になれないのではないのでしょうか。

よほど特殊なことでない限り、調査の手順や大まかな内容自体は機密でも何でもありませんから、公開してくれるのが普通だと思います。

少なくとも、以下の事項については隠さず情報公開してくれるのが優良な業者です。

- ・簡易スキャンから詳細チェックまで、調査の大まかな手順
- ・調査に使う機材の構成(受信機の台数、基本性能など)
- ・調査機材を使い、何ができるかという大まかな機能
- ・盗撮調査も同じ料金の範囲内で可能かどうか
- ・調査全体の所要時間

テレビを電気屋で買う時に「商品のカタログを見せてください」とお客様が言ったとして、「それはできません」と答える店からは、誰もテレビを購入しないでしょう。それと同様に、ごく基本的な調査内容さえも隠しているようでは、不審に思われても仕方ありません。

以下に、およその調査項目を書いておりますので、依頼時の参考にしてください。

### 簡易スキャン

発見割合の統計的に多い代表的な周波数を、素早くスキャンする。調査作業の効率化と、最低限の安全確保が目的。これだけで調査を終えてしまう業者もあるので注意。

### 詳細スキャン

業者によって最も内容が異なる部分。基本的には、簡易スキャンでの周波数も含めた、存在し得る全周波数(発見実績がない範囲までも)を詳細に調べていくことになる。最近は盗聴盗撮方法も多様化してきたので、上限周波数は2.5GHzくらいまでであるのが理想的。目視も交えながら、スペクトラムアナライザーや各種アンテナも使い、漏らさず徹底的に調べる。

### その後

盗聴器が見付かれれば警察に通報するのが基本。依頼者の許可も得ず、勝手に自分で取り外してしまうような業者ではいけない。依頼者への詳しい説明など、アフターサービスがある場合は、この段階になる(調査中はあまり会話しない)。

もちろん業者の機材や調査方針によって、内容は大きく変わりますので、上記の調査手順が必ずしも絶対ではありません。調査技術も進歩しています。

ただ、かなり高い料金を受け取って、簡易スキャンしかおこなわない業者が多いのは、残念ながら事実です。事前に調査内容を教えてくれない場合には、特に注意したほうが良いかもしれません。

## 調査機材が揃っている

(ここがポイント！)

- ・ハンディ受信機だけで調査を終わらせるようなことはしない
- ・スペクトラムアナライザーなど高性能な機材を持っている

(その理由は？)

機材の性能に慢心して努力を怠るようではいけません。機材が揃わなければ質の高い調査ができないのも盗聴発見の世界。2～3万円程度のハンディ型受信機だけを持って15分くらい歩き回り、「盗聴器は見付かりませんでした」というような業者では、たとえ悪意はなかったとしても、依頼者にとっては迷惑です。

どんな機材を、どのレベルで使いこなしているかという点で調査業者の実力をある程度知ることができます。

代表的な調査機材を以下で簡単に紹介しますので、これから依頼しようと思っている業者が「ハンディ型受信機だけしか使わず調査する」のか、「各種アナライザーまで使って本格調査してくれる」のか、判断の基準としてお役立てください。

・広帯域受信機(ハンディ型)



片手で持ち歩ける小型の広帯域受信機です。アナログ式盗聴器の一部は、これで検出・受信が可能です。ただしデジタル式の盗聴器や、受信範囲を超えた盗聴波に対しては力不足。主に盗聴発見調査では、調査開始時の高速簡易スキャンと、実際にアナログ式盗聴器の電波を検出した時に詳細な位置を特定するという用途に使われます。

### ・広帯域受信機(据え置き型)



こちらは据え置き型の比較的大きな広帯域受信機です。気軽に持ち運びはできませんが、ハンディ型受信機よりも受信感度・操作性・カバーする周波数帯・受信モードの多さ、といった多くの点で優れています。各種アンテナ類やスペクトラムアナライザーといった外部機器を幅広く組み合わせることができる「拡張性」も大きな魅力です。

### ・スペクトラムアナライザー



本来ならば目に見えない電波の波形を、視覚的に表示させる機材です。あまり一般には馴染みのない機材であり、価格は最低でも50～100万円を超えるのが普通です。全ての人が気軽に購入できるものではないですが、盗聴発見業を行うのであれば是非とも揃えておきたい機材のひとつと言えます。たまたに、スキャン速度の遅い「バンドスコープ」がスペクトラムアナライザーと混同されている場合もあるようですので、業者が持っている機材を確認する時には注意しましょう。

ここでは代表的と思われる基本機材を紹介しましたが、もちろん業者によっては違う種類の機材を使っていることもあるでしょう。むしろ大切なのは、「その機材によって何が調査できるか？」という点です。

- ・2.4GHz(ギガヘルツ)帯域の電波をスキャンできる
- ・電波の形を見えるようにリアルタイム表示できる(重要!)
- ・暗号化されたデジタル式の盗聴電波に対応している
- ・GHz(ギガヘルツ)帯の盗撮電波にも対応している

このように、調査可能な範囲が広く、少なくとも波形をリアルタイム表示できるレベルの機材を持った業者が、ひとつの目安となります。

## こんな業者には注意！

### 依頼者の不安心理を利用する

これは、「もう少しだけ考えさせて欲しい」と依頼契約を迷っている人に対して、

- ・今すぐ調査しないと手遅れになりますよ
- ・あなたのプライバシーが全部漏れていますよ
- ・わずかなお金を惜しんで、人生を狂わせる気ですか？

などと脅迫的な言動によって契約を急がせようとする手口です。盗聴発見に限らず、浮気やストーカー対策などでも悪徳業者は「不安心理」を巧みに利用して契約を迫ります。

たとえば、テレビや電話に少しノイズが入ると(ある業者へ)相談してきたお客様に対しても、「それは間違いなく盗聴されていますよ」と言い切り、不要な心配をさせられたという相談が当社へ寄せられたことがあります。実際は、少しばかりノイズが入ったからといっても盗聴の心配は高くありません。テレビや電話本体の機械的な不調、ケーブルの老朽化、ブロードバンド回線の発するノイズなど、盗聴以外の原因も少なくありませんから、あまり脅迫的な言動に心配はしなくて良いと思います。

もちろん、本当にしっかりした盗聴発見業者ならば、相談に来たお客様の不安をただ煽るだけの言動はしません。話を聞かないうちから決め付けたりせず、じっくりと相談に乗り、盗聴の知識に誤解があれば分かりやすく説明し、それでも不安が解消されない場合に調査をするという姿勢が普通です。

繰り返すようですが、悪徳な業者が付けこむのは、以下の2点です。

- ・依頼者の不安な心理
- ・依頼者の知識不足、情報不足

もし、契約を急がせるような言動が相手に見られるようなら、一度は相談を打ち切って冷静に考えてみた方が良いでしょう。「契約を急がせるような態度」には、十分に注意しましょう。

## 業者が盗聴器を持ち込む

悪徳な業者に調査を依頼した場合、その業者が自分で盗聴器を持ち込むことがあります。存在していないはずの盗聴器を”発見”したことにして、1個あたり4万円、といった法外な発見報酬や撤去費用を追加請求するという手口です(発見報酬を最初から明示していれば、悪徳ではありません)。

そもそも、依頼者の許可なく盗聴器を勝手に取り外してしまうような真似は、通常の業者であればやりません。そんなことをしてしまえば、本当に発見したかどうか分からず、もし本当だったとしても犯人特定の手掛かりを潰してしまうことになります。実際にあった話ですが、勝手に盗聴器を取り外してしまい、「あんたのところ(業者)が犯人じゃないの？」と警察から言われてしまった業者もあるほどです。

「盗聴器を見つけたので取り外しておきました。2個あったので8万円いただきます」。そんな詐欺まがいの被害に遭わないためにも、依頼者が調査現場に立ち会うことを禁じているような業者の動向には十分に気を付けてください。

## 契約外の請求をする

前項の『盗聴器を持ち込む』と少し内容が重なりますが、契約外の請求についても詳しく紹介しておきます。

盗聴発見の調査料金には、相場といったものが全くありませんから、どんな料金を支払う必要があるかは最初の段階でしっかりとチェックしておかなければなりません。

一般的な料金よりも大幅に安い金額で依頼をさせて、あとから色々な名目で追加請求するというのは、浮気調査などをおこなう探偵にも共通する、典型的な悪徳業者の手口です。特に、盗聴発見調査というのは、探偵の浮気調査よりもさらに「料金の相場」が不明瞭な分野ですから、あっさりと業者の言い値で支払ってしまうケースも少なくありません。

たとえば、一戸建て住宅の盗聴調査。  
わずか1万円と言われたので依頼してみると

- ・1万円というのは着金だけ
- ・本調査の料金は、面積に応じて別途必要
- ・機材費用、出張費用が別途必要
- ・盗撮カメラも調査する場合は倍額が必要
- ・盗聴器が発見された場合は1個あたり2万円
- ・30分延長ごとに1万円追加

こんな名目で次から次に追加請求されるくらいなら、最初から4万円くらいで全部調べてくれる業者を選んだ方が損をしなかったということになります。

**見積りで出された金額は、果たして最終的な支払い総額なのか？他に追加費用はどのくらいかかるのか？** その点について確認を忘れないよう、気を付けてください。

いくつかの発見業者から見積りを出してもらい、その対応や料金、調査サービスの範囲(盗撮発見もやってくれるか?)などを踏まえた上で、実際に依頼する業者を決めるのが良いでしょう。「どこでもウチと同じくらいの料金ですよ」という業者の言葉は、むしろあまり信用できないと考えられます。



## 調査能力が高くない

最初から依頼者を騙すような意図があるのは悪徳業者といえますが、ただ「最低限の調査機材すら持っていない」「盗聴に関する知識が全く不足している」という**実力不足な業者の場合、たいていは悪意がないだけに依頼者としても厄介です。**

たとえば、以下のような盗聴発見業者に依頼してしまったら、どうでしょうか？

- ・家(調査場所)に上がるなり、「盗聴発見調査に来ましたー！」と元気に挨拶する
- ・小型の受信機(ハンディ機)しか持っていない
- ・デジタル盗聴器の知識がない
- ・わずか15分~20分くらいで全調査が終了してしまう
- ・依頼者からの基本的な質問にも、まともに答えられない

いくら悪気がないとはいえ、これではお客様から料金を受け取って調査する「専門業者」としては問題があります。調査依頼する前には、こういった調査能力を見分けるために質問してみることが、とても大事になってきます。

- ・デジタル盗聴って何ですか？
- ・電波を飛ばさない盗聴器ってありますか？
- ・盗聴行為は、どんな部分が違法ですか？
- ・FAXや無線LANは盗聴できますか？
- ・発見が難しいタイプの盗聴器って何ですか？
- ・スペクトラムアナライザーは持っていますか？
- ・何種類くらいの受信機を使って調査しますか？
- ・盗撮カメラの調査はできますか？
- ・もし盗聴器が見付かった時はどうすれば良いですか？

上記のような項目について(一部でも構いませんから)、できるだけ失礼にならない形で質問してみることをお勧めします。あるレベル以上の知識を持つ業者なら、他にも色々な最新情報などを交えながら、分かりやすく教えてくれるはずですよ。

逆に、基本的な質問についても答えてくれないようであれば、知識の乏しい業者か、情報公開をしないような業者と判断することができます。

「調査能力」というものは料金と関係なく、むしろ料金格差よりも大きく、業者ごとに想像以上の格差があります。

盗聴発見調査といえば、料金ばかりを気にしてしまいがちですが、それと同等以上に大切な調査能力にも気を配るようにしてください。

## (付録1) 業者選び チェックリスト

盗聴発見業者を正しく選ぶための、簡単なチェックリストを作成しました。依頼する場合の参考としてご覧ください。

No	ポイント	チェック
1	所在地は公開されている？	(Yes, No)
2	料金の体系は分かりやすい？	(Yes, No)
3	小型受信機以外に、高性能な機材は持っている？	(Yes, No)
4	スペクトラムアナライザーを使ってくれる？	(Yes, No)
5	盗撮調査にも標準料金で対応している？	(Yes, No)
6	デジタル盗聴にも標準料金で対応している？	(Yes, No)
7	料金の「最終的な総額」を見積りしてくれた？	(Yes, No)
8	依頼を急がせず、親切丁寧に説明してくれた？	(Yes, No)
9	盗聴や盗撮の知識が多かった？	(Yes, No)
10	依頼者が調査に立ち会ってもいい？	(Yes, No)

### <採点基準>

それぞれの項目について、Yes か No でお答えください。

- ・答えが「Yes」なら、プラス1点  
(満点は10点となります)

### <点数による分類>

#### ・0～1点の業者

こんな点数になることはないと思いますが、もしあればリスクは高いと判断できます。

#### ・2～4点の業者

お世辞にもお勧めできる業者とはいえません。同じ料金なら、もっとしっかり対応してくれる業者を探す方が良いかもしれません。

#### ・5～7点の業者

それなりに信頼しても構わないとは思われますが、絶対に大丈夫とは言い切れません。

#### ・8～10点の業者

技術的にも、契約内容の面でも、満足できる調査をしてくれる見込みがあります。あとは調査日程や料金面との兼ね合いでしょうか。

## (付録2) 盗聴調査料金の平均

意外とあるようでなかった、盗聴盗撮調査料金の平均値です。依頼する場合の参考としてご覧ください。

	集合住宅	一戸建て	企業・店舗
他社平均	77,000	94,600	131,800
当社価格	42,000	49,000	98,000

- ・インターネット上で料金表を公開している業者が統計の対象。
- ・ランダムに10社を選び、料金の平均値を出した。
- ・盗聴と盗撮、両方とも調査した場合の料金。
- ・集合住宅、一戸建て住宅は面積を50㎡と仮定する。
- ・企業、店舗は面積を100㎡と仮定する。
- ・撤去費用は計算から除外(当社では無料)。

あくまで目安ですが、大体の料金が上記のようになります。もちろん、実際に依頼する時には、料金の安さだけでなく、調査能力やお客様への誠意ある対応などから総合的に判断してください。

なお、当社の盗聴盗撮調査に関して、料金を含めた詳細は下記ホームページで御覧になれます。

盗聴盗撮発見調査 専用ホームページ  
<http://www.akai-tap.com/>

## 盗聴発見業者の選び方マニュアル ver1.07

発行者/著作権者 : (株)Akai 探偵事務所

URL : <http://www.akai-web.com/>

e-mail : info@akai-web.com

TEL : 072-873-1995(大阪)

042-382-0575(東京)

盗聴盗撮調査 専用ホームページ

<http://www.akai-tap.com/>

この文書に掲載されたすべての内容について、無断転載、複製、  
複写、盗用を禁じます。

この文書は 一般的なパソコンの解像度(1024×768)に  
最適化された表示サイズとなっています。

お使いの環境に応じて Adobe Reader の表示倍率設定を  
調整していただければ さらに読みやすくなります。